

兵庫県立神崎工業高等学校 令和6年度 教職員自己評価

評価基準 ◎(できている) 5 / ○(どちらかというとできている) 4 / △(どちらかというとできていない) 2 / ×(できていない) 1

《 ランク A 5.00～4.00 / B 3.99～3.00 / C 2.99～2.50 / D 2.49～2.00 / E 1.99～1.00 》

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	調査年度	評価結果						評点	ランク
					◎	○	△	×	未回			
学 校 運 営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	「学級通信」・「学校だより」を発行するとともに「ホームページ」や「学校安心メール」を通じて、保護者に可能な限り情報を発信する。	2	11	21	4	0	0	4.1	A	
				3	8	21	6	0	0	3.9	B	
				4	8	15	7	1	4	3.7	B	
				5	17	18	2	1	0	4.3	A	
				6	7	19	8	1	0	3.7	B	
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	学校評議員会を年2回開催し、評議員から意見を聴取し、授業や行事等の改善に役立てる。	2	8	18	8	0	2	3.8	B	
				3	11	18	5	0	1	4.0	A	
				4	6	18	3	1	7	3.9	B	
				5	20	15	1	2	0	4.3	A	
	6			9	18	6	2	0	3.7	B		
	学校施設や教育資源の地域への開放	社会人教育として「特別専修コース」を開設し、地域住民が学ぶ環境をつくる。	2	16	14	3	1	2	4.2	A		
			3	13	18	2	1	1	4.2	A		
			4	9	16	2	1	7	4.1	A		
			5	25	11	0	2	0	4.5	A		
			6	13	18	3	1	0	4.1	A		
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に生徒指導方針を生徒・職員に明確に説明し、定期的にその方針の達成状況を確認する。	2	13	21	2	0	0	4.3	A	
				3	10	19	5	0	1	4.0	A	
				4	8	17	6	0	4	3.9	B	
				5	15	18	5	0	0	4.1	A	
				6	8	15	11	1	0	3.5	B	
		生徒の内面理解を図る指導の工夫	各学期に個人面談を実施すると共に、家庭とも密接な連絡をとる。	2	12	20	2	2	0	4.1	A	
				3	10	22	2	1	0	4.1	A	
				4	11	15	3	1	5	4.1	A	
				5	17	19	1	1	0	4.3	A	
				6	13	16	6	0	0	4.0	A	
		生徒の自主自律の精神を育む指導の工夫	生徒会行事の活性を図り、生徒の自律意識を高める。	2	10	14	10	2	0	3.6	B	
				3	10	22	2	0	1	4.2	A	
				4	9	20	5	1	0	3.9	B	
				5	14	18	6	0	0	4.1	A	
				6	12	16	6	1	0	3.9	B	
		いじめ行為の未然防止、早期発見への取り組み	「生活アンケート(いじめ行為含)」を毎学期実施するなど、いじめ行為の未然防止、早期発見に努めている。	2	21	15	0	0	0	4.6	A	
				3	23	12	0	0	0	4.7	A	
4				15	19	1	0	0	4.4	A		
5	25			13	0	0	0	4.7	A			
6	14			15	5	1	0	4.0	A			
進路指導	進路指導体制の充実	進路指導に関する年間計画を作成し、組織的に指導する。	2	16	18	2	0	0	4.3	A		
			3	14	19	1	0	1	4.4	A		
			4	8	13	3	2	9	3.8	B		
			5	19	15	4	0	0	4.3	A		
			6	13	18	3	1	0	4.1	A		
	職業観・勤労観の育成と進路意識の育成	外部講師による進路講演会を各学年で年1回開催し、生徒の職業観を高める。	2	11	23	1	1	0	4.2	A		
			3	14	18	2	0	1	4.3	A		
			4	6	12	6	0	11	3.8	B		
			5	18	17	3	0	0	4.3	A		
			6	13	17	2	3	0	4.0	A		
教職員の資質向上	実践的指導力の向上	いつでも公開授業ができる体制を整える。各学期に1回以上研究授業を行う。	2	10	20	5	1	0	3.9	B		
			3	10	16	7	1	1	3.8	B		
			4	10	18	6	1	0	3.9	B		
			5	18	16	4	0	0	4.3	A		
			6	12	19	2	2	0	4.1	A		
	計画性をもった研修の実施	進路・教務・保健・生徒指導等の諸課題に関する研修を計画的に立案する。	2	5	28	2	1	0	3.9	B		
			3	7	21	5	0	2	3.9	B		
			4	6	17	8	4	0	3.4	B		
			5	10	21	7	0	0	3.9	B		
			6	9	14	9	3	0	3.5	B		
	情報教育の推進	ICT教育(パソコンやタブレット端末、ネットなど情報通信技術を活用した教育)の特性を活かし、タブレットを用いる授業や遠隔授業の研修、またそれらの準備・実践など計画的に行う。	2	13	18	5	0	0	4.1	A		
			3	10	18	6	1	0	3.9	B		
			4	8	18	8	1	0	3.7	B		
5			11	22	4	1	0	4.0	A			

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	調査年度	評価結果					評点	ランク
					◎	○	△	×	未回		
学校運営	危機管理体制の整備	生徒に対する安全教育の充実	学校危機管理マニュアルに基づいて、不審者の侵入などの危機的事態への注意を喚起し、連絡の徹底を図る。	2	7	21	6	1	1	3.8	B
				3	9	19	6	0	1	3.9	B
				4	6	18	10	1	0	3.5	B
				5	10	18	9	1	0	3.7	B
				6	6	18	7	4	0	3.4	B
		教員の実践的な研修・訓練	緊急事態への対応や、生徒の心のケアについての研修を定期的に行う。	2	9	22	5	0	0	4.0	B
				3	4	25	5	0	1	3.8	B
				4	8	18	9	0	0	3.7	B
				5	12	21	4	1	0	4.0	A
				6	9	19	5	2	0	3.8	B
		感染症予防対策の向上	感染症に関する知識を深めながら、感染への注意力や行動力を高めて予防対策を向上させ、生徒へもその重要性を教育している。	2	14	17	4	0	1	4.2	A
				3	12	22	1	0	0	4.3	A
				4	8	22	5	0	0	3.9	B
				5	11	21	5	1	0	3.9	B
				6	6	20	8	1	0	3.6	B
	学校運営全般	学年・学級経営	学校教育目標達成に向けた学年・学級の具体的経営方針を立て、その実施に努力する。	2	10	23	3	0	0	4.1	A
				3	10	23	1	1	0	4.1	A
				4	8	16	3	0	8	4.1	A
				5	9	23	5	1	0	3.9	B
				6	7	23	4	1	0	3.9	B
		校務分掌	年度当初に、それぞれの分掌における重点目標を設定し、適宜取り組みについて評価・見直しをおこなう。	2	11	19	5	1	0	3.9	B
				3	8	21	6	0	0	3.9	B
				4	9	21	4	1	0	3.9	B
				5	12	19	5	1	0	4.0	B
				6	7	17	9	2	0	3.5	B
教育課程	保護者	保護者との連携	授業参観や体育祭、文化祭など保護者に対して学校を開き、学校教育活動の理解に努めている。	2							
				3							
				4							
				5							
				6	15	17	3	0	0	4.3	A
				2	9	21	6	0	0	3.9	B
	基礎・基本の定着	自らが学び考える力の育成	多様な体験活動等を設定し、生徒の関心に応じた特色ある教育課程を編成する。	3	7	16	8	1	3	3.6	B
				4	7	19	7	2	0	3.6	B
				5	11	21	6	0	0	4.0	B
				6	6	23	6	0	0	3.8	B
		基礎学力の向上	既習内容の学び直しを行うなど、基礎学力向上に向けて指導方法を工夫している。	2							
				3							
				4							
				5							
				6	14	17	4	0	0	4.2	A
		学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	校外研修会等に積極的に参加し、魅力的な授業づくりの工夫をする。	2	4	13	13	6	0	2.9	C
				3	8	13	9	4	1	3.4	B
				4	9	17	8	1	0	3.7	B
				5	10	20	8	0	0	3.8	B
				6	9	14	10	2	0	3.5	B
	個に応じた指導の徹底	評価方法の創意工夫	評価方法について、教科間の意見交換や教科内の研修会を各学期に1回以上実施して、多角的な評価方法を工夫する。	2	8	18	8	2	0	3.6	B
				3	8	16	10	0	1	3.6	B
				4	7	22	5	1	0	3.8	B
				5	14	15	8	1	0	3.9	B
				6	7	20	5	2	1	3.7	B
		指導形態の工夫	生徒の実態を把握して、個に応じた指導をおこなう。	2	16	18	2	0	0	4.3	A
				3	14	19	1	0	1	4.4	A
				4	13	21	1	0	0	4.3	A
				5	19	16	3	0	0	4.3	A
				6	8	23	4	0	0	4.0	A
	特別活動(学校行事等)	自主的・実践的な活動の活性化	部活動の活性化や、生徒会活動の積極的な運営を進める。	2	10	12	14	0	0	3.5	B
				3	11	19	3	0	2	4.2	A
				4	12	13	9	1	0	3.7	B
				5	15	19	4	0	0	4.2	A
				6	7	20	6	2	0	3.7	B
		学校行事の精選と行事内容の充実	学校行事検討委員会を開催し、行事の精選や行事内容の充実を図る。	2	11	19	3	2	1	4.0	B
				3	9	15	4	3	4	3.7	B
				4	7	19	6	3	0	3.6	B
				5	14	17	6	1	0	4.0	B
				6	8	18	7	2	0	3.7	B

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	調査 年度	評価結果					評点	ランク
					◎	○	△	×	未回		
教 育 課 程	芸術文化活動	ボランティア活動	各種ボランティア活動への積極的参加を促している。	2	0	12	15	9	0	2.4	D
				3	5	10	14	3	3	3.0	B
				4	3	17	13	2	0	3.2	B
				5	18	15	4	1	0	4.2	A
				6	6	21	5	3	0	3.6	B
				2	0	5	9	22	0	1.7	E
	芸術文化活動	文化的行事	文化祭(神工祭など)で、専門科の実習内容や文化部の発表の場を設ける。	3	4	10	12	6	3	2.8	C
				4	9	21	3	2	0	3.9	B
				5	15	16	6	1	0	4.0	A
				6	13	16	6	0	0	4.0	A
	各科の個性化		資格検定試験を受験させ、学習意欲の喚起を図る。	2	10	13	2	1	10	4.1	A
				3	9	18	1	0	7	4.3	A
				4	7	14	1	1	12	4.1	A
				5	20	17	1	0	0	4.5	A
				6	11	16	2	2	4	4.0	A
		(機械科) 機械技術の基礎基本の定着	物づくりを中心とした課題に生徒の意欲関心を持たせる。	2	10	13	2	1	10	4.1	A
				3	9	17	1	0	8	4.3	A
				4	8	14	1	1	11	4.1	A
				5	14	23	1	0	0	4.3	A
				6	12	16	1	2	4	4.1	A
			総合的な技術を習得させて、応用と創造の能力を育成する。	2	10	11	3	2	10	3.9	B
				3	9	17	2	0	7	4.2	A
				4	7	13	3	1	11	3.9	B
				5	14	23	1	0	0	4.3	A
				6	10	16	3	2	4	3.9	B
			資格検定試験を受験させ、学習意欲の喚起を図る。	2	8	11	1	3	13	3.9	B
				3	16	10	1	0	8	4.5	A
				4	8	10	0	1	16	4.3	A
				5	21	17	0	0	0	4.6	A
				6	9	16	0	3	7	4.0	A
		(電気科) 工業の情報化・高度化に対応した情報技術の充実	工業基礎・電気実習・電気基礎・情報技術基礎など、科目の指導内容の精選をおこなう。	2	7	13	1	3	12	3.8	B
				3	13	13	1	0	8	4.4	A
				4	7	11	0	1	16	4.2	A
				5	16	20	2	0	0	4.3	A
				6	8	14	3	3	7	3.8	B
			意欲的に課題解決を行うように工夫をし、達成後、さらに次のステップへの意欲を持たせる。 (第2種電気工事士受験等)	2	9	10	2	3	12	3.8	B
				3	14	12	1	1	7	4.3	A
				4	9	9	0	1	16	4.3	A
				5	19	19	0	0	0	4.5	A
				6	9	14	1	4	7	3.8	B
課 題 教 育	防災・安全教育	教員の防災教育に係わる指導力・実践力の向上	「生徒の命を守る」という教職員の意識と技術を高める。防災訓練を年2回行う。	2	11	19	5	1	0	3.9	B
				3	18	14	1	0	2	4.5	A
				4	12	23	0	0	0	4.3	A
				5	19	15	4	0	0	4.3	A
				6	13	17	5	0	0	4.1	A
	人権教育	確かな人権意識の育成	人権教育HRや生活体験発表会において、生徒の身近な問題から相互に尊重し合う態度を育てる。	2	6	24	3	3	0	3.8	B
				3	14	18	2	0	1	4.3	A
				4	7	25	3	0	0	4.0	A
				5	11	25	2	0	0	4.2	A
				6	10	17	6	2	0	3.8	B
	情報教育	情報モラルの育成	情報発信に伴う責任など、情報モラルを育成する。また、プライバシー保護や著作権尊重の重要性を考えさせる。	2	7	24	4	1	0	3.9	B
				3	11	15	7	1	1	3.8	B
				4	8	20	7	0	0	3.8	B
				5	11	22	4	1	0	4.0	A
				6	8	21	4	2	0	3.8	B
	環境教育・福祉教育	環境・福祉体験活動等の推進	生徒の身近な問題から環境への関心を高め、より良い環境を創造するための実践力を育てる。	2	5	20	9	2	0	3.5	B
				3	10	15	9	1	0	3.7	B
				4	5	18	11	1	0	3.4	B
				5	9	17	11	1	0	3.6	B
				6	7	14	11	3	0	3.3	B
	交通安全教育	実践的な安全教育への取り組み	登下校・自転車・単車(125CC以下)の指導を実施し、自他の生命を尊重する意識を高める。	2	12	18	5	0	1	4.1	A
				3	16	12	5	1	1	4.1	A
				4	11	15	8	1	0	3.8	B
				5	13	19	5	1	0	4.0	A
				6	10	20	4	1	0	4.0	B